

平成28年10月臨時会 市長提案説明

ただいま上程いただきました平成27年度各会計の決算認定につきまして、その概要を御説明申し上げます。

まず、一般会計の歳入でございますが、市税は市民税の増加などにより、前年度比 約1億5,100万円の増加、地方交付税は約3,900万円の増加となっております。

その他、地方消費税交付金が前年度比約11億5,600万円の増加、国庫支出金が約1億7,600万円県支出金が約2億1,000万円の増加、繰入金が約3億9,600万円の増加、市債が約27億4,900万円の減少となるなど、歳入の決算額は、前年度と比較して、約7億円の減少で612億415万2千円となりました。

一方、歳出の決算額は前年度と比較して、約6億4,100万円の減少で600億1,374万5千円となりました。

続きまして、平成27年度に実施しました主な事業でございますが、因島消防署建設事業や因島北認定こども園整備事業、消防救急無線デジタル化事業、地方創生関連事業などに取り組みました。

このほか、総務関係では、本庁、因島総合支所、百島支所の庁舎整備事業に着手し、マイナンバー制度に対応するためのシステム改修や大規模災害時業務継続計画、災害時初動対応マニュアルを作成したほか、しまなみ交流館や瀬戸田市民会館のホール音響設備の整備事業、5年に1度の国勢調査の実施などに取り組みました。

次に、社会福祉関係では、消費税引き上げによる影響を緩和するため、前年度に引き続いて臨時福祉給付金給付事業と子育て世帯臨時特例給付金給付事業に取り組みました。

また、入院に係る乳幼児等医療費の助成対象を中学3年生までに拡大しました。

土堂や因島南、高須などに放課後児童クラブを新增設し、東尾道と生口島に子育て支援センターを開設しました。

さらに、たんぼぼ保育園、あゆみ保育園の整備及び認可移行への支援事業を実施するなど子育て環境の整備に努めました。

生活に困りごとや不安を抱えている人への相談窓口を開設し、自立に向けた支援プランを作成するなど生活困窮者自立支援事業に取り組みました。

また、保健衛生関係では総合福祉センター内に妊娠、出産、子育てを切れ目なくサポートするための拠点として子育て世代包括支援センター「ぽかぽか」を年度末に開設しました。

尾道市クリーンセンターでは、施設稼働 21 年が経過し、焼却施設の延命化を図るために、先進的設備導入推進工事に継続して取り組み、因瀬クリーンセンターでは、基幹的設備改良工事に着手し、新棟の建設工事などを行いました。

農林水産関係では、おのみちブランド発展支援事業やプロジェクト産地発展支援事業などによって、農産品のブランド力維持、生産体制づくり、販路拡大などへの支援を行いました。

近年問題となっておりますイノシシ等農業用被害対策事業や水産振興として各種稚魚稚貝の放流事業にも継続して取り組みました。

また、油屋新開及び道越排水機場改修事業では、老朽化したポンプを更新し、農地への水害を未然に防ぐための工事及び設計を実施しました。

次に、商工業振興では、企業誘致活動や工場等設置奨励金の交付のほか、中小企業への金融支援事業に取り組みるとともに、新規創業に係る資金の利子補給などを行ったところでございます。

また、市内の消費を拡大させ、地域経済の活性化を目的とする「おのみちプレミアム付商品券事業」を実施したほか、尾道を訪れる外国人観光客が便利に買い物を楽しむことが出来るように免税販売促進事業などに取り組みました。

ベイタウン尾道が実施する高度化事業に対し高度化資金償還額の 10%助成を行い、市内中小企業者の機能と構造の高度化促進を支援しました。

観光振興では、千光寺公園頂上エリアのリニューアル事業に着手し、基本計画を作成しました。

また、持光寺石門、宝土寺山門、天寧寺塔婆の夜間景観照明の整備を行いました。

空港利用の観光客や市民の利便性を向上させるため、尾道・広島空港線高速バス運行事業に向けた実行委員会の広報事業への助成を行いました。

また、「瀬戸内しまなみ海道ロケーションマーカー」表示板を設置し、サイクリングロードの整備事業を実施しました。

次に、道路関係では、修繕・舗装工事などを 80 か所、新設改良事業を 68 か所で行うとともに、橋りょうの定期点検は 30 か所について取り組みました。

また、橋りょうの長寿命化修繕計画に基づき、7 か所の修繕工事と、3 か所の詳細調査・設計を実施したところでございます。

さらに、「歴史的風致維持向上計画」に基づき、久保9号線などの道路美装化を実施し、「歴史的風致活用国際観光支援事業」により、市内10か所で多国語音声設備の設置を実施しました。

加えて、尾道市都市計画マスタープラン策定に着手しました。

浸水対策では、公共下水道事業において高西東新涯ポンプ場の整備事業を継続して実施しました。

また、公共下水道事業では平原団地の接続や高須町東新涯地区の面整備により処理能力が不足するため、浄化センターを増設する事業や現有施設の長寿命化事業に継続して取り組みました。

港湾振興では、百島福田港について、現代アートと融合させた、みなとづくりの全体計画を策定しました。

また、尾道水道クルーズの利用促進を図り、ポートターミナル周辺の賑わい創出などに取り組みました。

離島振興では、渡船事業において、老朽化した細島航路の船舶「こまたき」の新船を建造し、地域の交通環境の維持向上に努めました。

消防関係では、因島消防署瀬戸田分署の用地取得を行いました。

また、水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急自動車、調査広報車などの更新を行うとともに、防火水槽1基、消防団器具庫3棟の整備、小型動力消防ポンプ車5台、消防団員の安全装備品の整備など消防施設等の充実強化を図ったところでございます。

次に、教育関係では、「尾道教育みらいプラン」につきましては、学力向上対策事業、読書活動を推進する事業、不登校への対応を充実する事業、特色ある教育研究を推進する事業、外国語教育を充実する事業を重点に、取り組みを進めてまいりました。

新たに教育用タブレット端末を41台導入し、ICTを活用した教育に力を注ぎました。

学校施設整備では、小中学校校舎の耐震改修工事に合わせて、屋内運動場の非構造部材の耐震改修にも取り組みました。

中学校給食につきましては、平成27年9月から新たに5校、全体で8校においてデリバリー方式の給食を提供しております。

平成27年度に文化庁が新たに創設した日本遺産に「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として認定され、日本遺産のまち尾道を国内外に向けて広く発信しました。

また、尾道ゆかりの文化人記念事業として、圓鐔勝三生誕 110 年記念事業を実施いたしました。

スポーツ施設の整備では、御調ソフトボール球場の防球ネット整備、東尾道市民スポーツ広場の駐車場整備などに取り組みました。

これら、主要な施策につきましては、お手元にお配りしております「平成 27 年度 主要な施策の成果」で御報告申し上げているとおりでございます。

続きまして、平成 27 年度の本市の財政状況についてでございますが、経常収支比率は、前年度比 2 ポイント改善し、91.4%となっております。

また、実質公債費比率は、前年度比 0.7 ポイント改善し、7.7%に、将来負担比率は、11.7 ポイント改善し、38.5%となっております。

平成 27 年度は小学校建設事業などの大規模建設事業が、ひと段落したことから、市債残高が減少し、基金残高は増加しております。庁舎建設などの新市建設計画実施による将来負担に備えるため着実な歩みを進めました。

今後の本市の財政運営につきましては、引き続き、総合計画、新市建設計画、行財政改革大綱などに基づき、財政運営見通しを立てた上で、事業の優先順位付けを行うなど、事業の見直しを行い、また、経費の節減に努めることなどにより、財政の健全性を保ちながら、必要な事業を着実に執行してまいります。

決算の内容につきましては、担当部長より、説明をさせますので、よろしく御審議の上、御認定を賜りますようお願い申し上げ、総体的な説明とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

本文は、口述筆記ではありませんので、表現などについて、実際の説明と若干異なることがあります。